

# 「にじのきらめき」栽培ごよみ（暫定版）

茨城県農業総合センター  
2022年2月作成

多収・良食味米品種「にじのきらめき」標準作業手順書第1版（農研機構）より一部引用

時期	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作業	育苗箱施薬 除草剤散布 浸種 催芽播種 施肥 代かき 移植						病虫害防除						カメムシ防除			収穫 乾燥 調製			土づくり					
生育ステージ (5月上旬移植)	● 播種 → ○ 移植 出芽 2.2~2.5葉期 活着期 分けつ期						△ 穂肥 幼穂形成期						◎ 出穂期 登熟期			▼ 落水 収穫 成熟期			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・堆肥の施用</li> <li>・稲わらのすき込み</li> <li>・耕深15cm以上の確保</li> </ul> </div>					
水管理	入水 浅水(活着・分けつ促進) 中干し						間断かんがい						落水											

収量・品質目標	
収量	660kg/10a
穂数	400本/m <sup>2</sup>
千粒重	23.5g
整粒歩合	80%

栽培管理のポイント	
1.	多収のためには、適正な施肥設計を行う（土壌診断の実施）
2.	健全種子を使用し、しっかりと浸種する (浸種積算温度:120~135℃)
3.	健苗育成・適期移植を心がける
4.	寒さに弱いため、穂ばらみ期の低温には深水管理を実施する
5.	早期落水を防止、適期収穫を心がける (出穂後の積算気温:1,050~1,200℃)
6.	雑草防除や病虫害防除（斑点米カメムシ）を徹底する

●育苗	
①浸種・催芽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浸種時の水温は10~15℃とし、浸種積算温度は120~135℃を目安とする。</li> <li>※「コシヒカリ」よりも1日程度長く浸種を行わないと、十分でない場合がある。</li> <li>・催芽は30℃、24~32時間でハトムネ状態にする。</li> </ul>
②播種	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1箱当たりの播種量は乾籾で175g（催芽籾で220g）、10a当たりの苗箱数は15~18箱程度とする。</li> </ul>
③育苗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育苗日数が「コシヒカリ」よりも3~5日程度長い場合がある。</li> </ul>
④播種後の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もみ枯細菌病等の発生を抑えるために30℃以下で管理する。</li> </ul>

## 品種特性

品種名	早晩性	草型	移植期 (月日)	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	収量 (kg/10a)	千粒重 (g)	耐倒 伏性	耐病性		穂発 芽性
										縞葉 枯病	葉い もち	
にじのきらめき	中生	中間	4.26	7.23	9.03	68	644	23.2	強	強	中	難
コシヒカリ	中生	中間	4.26	7.23	8.31	91	578	20.8	弱	弱	弱	難

●水管理	
・	移植後は2~3cmの水深を維持し、水温を上げ生育の促進を図る。
・	中干しは目標穂数の8割（目標穂数が400本/m <sup>2</sup> の場合320本/m <sup>2</sup> ）を目安として開始し、田面にひび割れが出来る程度に行う。その後は間断かんがいとする。
・	耐冷性が弱いため、穂ばらみ期（出穂14~7日前）に低温が予想される場合は10cmの深水管理とする。
・	落水は出穂期後30日以降とし、用水が早期に止まる時は直前に溜めておく。

- (1) 試験年次：平成28年~令和2年
- (2) 試験圃場：茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室（龍ヶ崎市大徳町中粗粒灰色低地土）
- (3) 施肥量(10a当たり) 基肥：窒素6kg、リン酸6kg、カリ6kg、追肥：窒素3kg、カリ3kg
- (4) 栽植密度：30cm×18cm(18.5株/m<sup>2</sup>)

●施肥	
・	総窒素量（基肥+穂肥）は9~12kgN/10aを目安とする。「コシヒカリ」栽培の1.5~2倍程度を目途とした栽培を推奨する。
・	穂肥は幼穂形成期の出穂前30~25日頃（幼穂長1mm）に2~3kgN/10a施用し、必要に応じて出穂前14日頃（幼穂長4cm）に0~2kgN/10aを追加で施用する。
・	穂肥の施肥量、回数は幼穂形成期~出穂期までの葉色がSPADで40を下回らないことを目安とする。
【例】	基肥7~9kgN/10a + 出穂前30~25日頃に穂肥2~3kgN/10a 葉色に応じて出穂前14日頃に追加で穂肥0~2kgN/10a

●種子の準備	
・	薬剤や温湯消毒（60℃ 10分）により種子伝染性病害の防除を必ず行う。
・	種子量は3~3.5kg/10aを目安とする。

●田植え	
・	移植適期は5月上旬~中旬とする。
・	栽植密度は坪当たり50~60株を基本とする。植付本数は株当たり4~5本、植付深度は2~3cmで行う。

●収穫	
・	出穂期から収穫までの日数は「コシヒカリ」より4~5日程度長くなる。目安は出穂後の積算気温1,050~1,200℃（帯緑率10%、出穂後約43日）となる。
●乾燥・調製	
・	乾燥は高温・急激乾燥を避け、水分15%に仕上げる。
・	調製は1.85mmの篩目を使用する。

●その他注意点	
・	白葉枯病に弱いため常発地では防除を徹底する。
・	縞葉枯病抵抗性品種だが、本病の発生が多い地域では、媒介虫のヒメトビウンカを増やさないため、薬剤防除を実施する。
・	いもち病や紋枯病の発生を確認したら防除する。
・	カメムシ防除は出穂期~乳熟期に殺虫剤を散布する。